「シドニー便り　２．０」（第8回）

～　州立美術館のボランティア日本語ツアー：Japanese volunteers' guided tour of Art Gallery of　NSW ～

１月30日

この週末、日本語ガイドツアーの皆さまにお誘いを頂いて、Art Gallery of NSW を訪れました。

かねてより Art Gallery of NSW では、日本語での案内をされているボランティアの方々が活躍されています。現在は9名の方々が、毎週金曜日と日曜日にツアーを開催されており、皆さまそれぞれ、試験やトレーニングを経て、ガイドの資格をお持ちになられています。コロナ禍で一時中断はあったものの、昨年１２月の新館の開館も契機に、日本語ツアーへの参加を積極的に呼びかけています。私も今回参加して、ガイド付きの鑑賞は、理解を深め、多くの気付きを得るのにまたとない機会であることを実感しました。

私がご案内を頂いた内容をご紹介し、ボランティア・ガイドの皆さまの活躍と貢献振りを紹介したいと思います。そしてたくさんの方々が日本語ガイドツアーに参加されることを期待します。

当日は、ファーズみどり様の声がけで、チョーカー和子様、花咲三起子様、浜田千恵様に新館と本館の双方をご案内頂きました。その後、松田延子様、鴨粕弘美様、森岡薫様も加わり、7名のボランティア・ガイドの方々と懇談する機会を得ました。２００３年からガイドを務めている方もいらっしゃいます。

エントランスのウェルカム・プラザでは、ブロンズの大きな人型の彫刻が真っ先に目に入ります。ニュージーランドの彫刻家、アプリチャード女史の作品です。足長・手長の二人の人間の協働がテーマで、幕末から明治にかけて活躍した浮世絵師の河鍋暁斎（かわなべ　きょうさい）氏の影響を受けた作品であるとのことです。

エントランス付近では、ジョナサン・ジョーンズ氏の作による先住民をテーマとした庭園が建設中です。今年中には完成すると言われていますので、楽しみにしています。

まずは Aboriginal and Torres Strait Islanders の作品を集めた Yiribana Gallery に入ります。

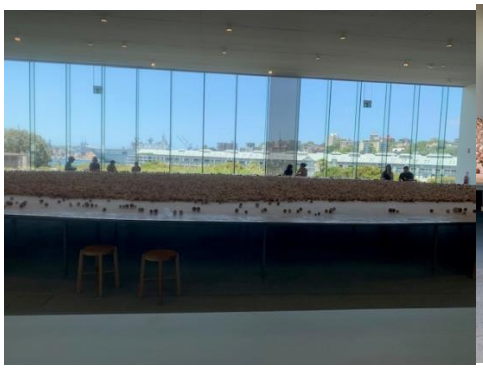
右側の写真は”Waterbrain”という名の作品。人の一生、人類の歩みを表しているとのこと。真ん中付近の灰色の大きな丸い形が脳（brain）を示すそうです。

こちらは上から、王冠、紋章、旗を表しているとのこと。

外からも見えるこの作品は20メートルのホールに掲げられた「多くのバッグ」。

一つ一つのグラスは先住民族の重要な食材である「やむ芋」で、黒交じりの雲のような形状は、核実験で汚染された空を表しているという、政治的メッセージを持たせた作品。

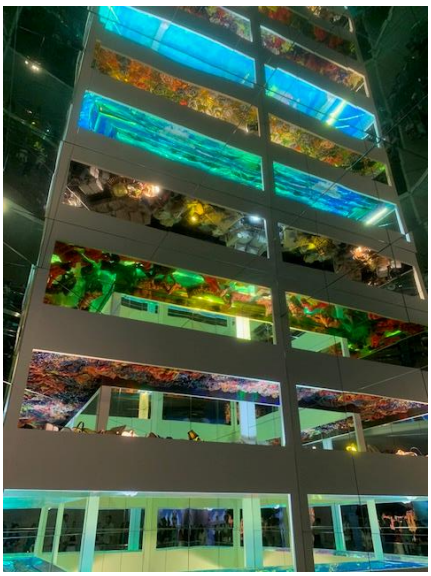
次のホールの、“Making World“では、「参加型作品」が展示されています。お客さんが粘土を丸くこねて、作品の一部に加えていく様子を撮影しました。



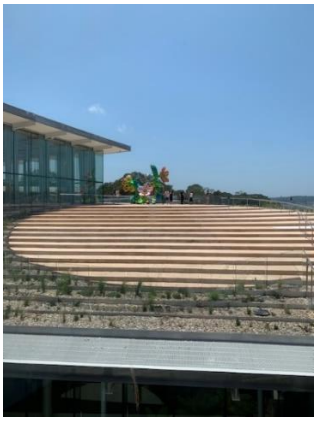
逆さ世界地図です。糸は人の移動・移住を、有刺鉄線はその制限・途絶を表しているとのこと。

次のホールへの移動の途中、村上隆氏による巨大な壁面画に圧倒されます。侍と妖怪が題材です。

次のホールは家族、家がテーマでした。特に前後四方が鏡に囲まれた家具類等の展示物が前衛的で斬新です。



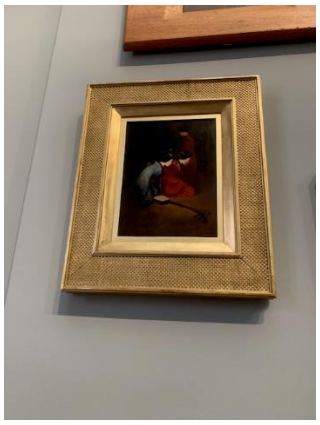
このギャラリー新館は、「シドニー・モダン・プロジェクト」として、1871年のオープンの150周年を記念して建設されました。コロナの影響で開館が一年延びましたが、昨年12月の開館以来、高い人気を誇り、シドニーの新たな目玉施設となっています。設計は、日本の妹島和世・西沢立衛の両氏が代表を務める SANAA が、コンペの結果、満票で採択されたとのこと。両氏と昨年末にお会いした際は、土地の起伏を損ねず上手に利用することに注意を払ったとのことでした。樹木類も残した建物は、オーストラリアで環境に優しい建物のレイティングである“Green Star Design”の最高基準の6つ星を公立美術館で初めて得たとのことです。下の写真は Yiribana Gallery から撮影したもので、当地でも人気を博している草間彌生氏による彫刻が青い空に映えています。



写真はありませんが、オイルタンク跡地を利用したギャラリーも訪れました。戦時中の1942年に造られたタンクは、6百万から最大1千万リットルの油を収容可能。油の香りが今なお残ります。暗闇の中、作品に衝突しないよう、ゆっくり歩きます。

続いて本館に移動します。
こちらは近代絵画が中心です。また、アジア系の芸術作品も充実しています。
日本とのゆかりを示す作品もいくつかあるのは嬉しいことです。

１８７９年のシドニー万博に日本政府が展示をした浮彫りの陶磁器。海の幸の絵柄が美しい。



日本を描いた英国人の作品や、日本の画家による浮世絵もいくつか展示されています。

紹介が駆け足になりました。まだまだご紹介しきれない数々の作品をガイドの方々からご説明頂きました。改めて、ボランティア・ガイドの皆さまの活躍と貢献に敬意を表します。多くの「気づき」と「発見」を頂いたことに感謝申し上げます。

今後、ますますたくさんの方々に Art Gallery of NSW に足を運んでいただき、日本語ガイドツアーに参加して頂けることを期待します。

（以上）